

文化・芸術

「raincolor」

2022年、リネン・ポリプロピレン
230.0cm×115.0cm

撮影 木暮伸也

土田好江（1943年）

雨のしずくが、垂直に落ちる。本作は、その数秒に満たない瞬間を、設計・染め・織りと膨大な時間と繊細な作業を経て織り上げています。紺（かすり）と呼ばれる、たて糸をくくって染め、生み出される染織文様。その輪郭はやわらかなゆらぎがあり、優美です。緻密な設計を要し、糸を染めるまでの工程が制作の大半を占めるといいます。

キラキラと輝くのは、よこ糸に用いられた銀色のポリプロピレンテープで、土田好江さんの独特の素材です。ストライプや左右の縁、真ん中にあしらわれた銀色が縦の線を強調し、落下運動をあらわす一方で、下方方向に輪を作って留められた段は、しずくの丸みを感じさせます。

緑、青、紫の幻想的なグラデーションは、色彩の反復も相まって静かなリズムを奏でています。

透明な雨粒が落下する中で世界のさまざまな色を映していく様子。それはほんの一瞬ながら、途方もない時間を凝縮しているようです。

（大倉）

《名画の扉》

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2022 Natural Mind and Natural Color in KIRYU」から

